



研究所だより

相良 孝雄

夏の気候から一気に秋を飛び越えて冬を感じる10月下旬の池袋です。会員の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

臨時国会での冒頭解散があり、10月22日(日)に衆議院議員総選挙の開票がされました。自民党は「国民を守る」と訴えましたが、そもそも国民は守られる存在なのでしょうか。私は憲法の三大原則の1つに国民主権が謳われているので、国民は守られる存在ではなく、国民(市民)自らが社会をつくる方向に進むことが大切だと思っています。

8月～10月の3か月間、忙しい中でも、私にとっては内容の濃い3か月間を過ごしました。8月は沖縄大学、沖縄国際大学での寄附講座の開講。9月は日本協同組合学会、福井協同集会、10月は「いま、協同が拓く全国集会2017」(滋賀)の最終追い上げ準備、開催がありました。その場面を通じて多くの方と出会い、関わりを持つなかで嬉しいことがあったので、3点紹介します。

第1は全国協同集会開催準備に向けて、大学生協の学生委員会の先輩である中島達弥京都大学生協専務理事との出会いでした。「学生委員会を経験した相良くんが、協同組合の第1線で活躍していること嬉しいよ」と言っていたが、10数年ぶりにお会いしましたが、昔と変わらず協同組合への想いを持たれていると同時に、人間味のある温かさを感じまし

た。全国協同集会の話は2分ほどで終わり、それ以外の時間は、今後の協同組合がめざす社会や地域のあり方、学生の学びについて懇談しました。中島さんは全国協同集会全体会にも参加しました。これから研究所として例えば研究会での報告や協同の発見誌にご執筆いただきたいと思いました。

第2は、日常的につながりがある蔦谷栄一会員から「愛読書は協同の発見誌」(9月23日東京三多摩協同集会)と発言があったことです。私は協同の発見誌の編集に関わってから5年目になりますが、一番嬉しい言葉でした。励みにするとともに、協同の発見誌をより充実した中身にしようとして新たに決意しました。

第3はネットワーク・運動を通じての寄附講座の広がり与会員の増加です。在沖縄の大学以外に、福島大学と千葉大学で来年度の寄附講座開講の準備を共にしていただくことになりました。福島大学の小山良太先生、林薫平先生、千葉大学の伊丹謙太郎先生は、日本協同組合学会でお世話になっている先生方です。また福井協同集会で実行委員長をしていただいた北川太一先生、全国協同集会で2日目の分科会の会場(龍谷大学瀬田キャンパス)をお貸しいただいた石田正昭先生も日本協同組合学会でお世話になっています。各集会を通じて、6名の方が新規で協同総研の会員になりました。運動か

らつくる寄附講座の広がりや協同総研の会員が増えていることを実感するとともに、日常的な信頼関係こそが大切なことを痛感しました。

選挙後、協同労働の協同組合の法制化の取り組みをより一層進めます。今後、法制化をテーマにした特集を協同の発見誌で組み、研究会も開催したいと思えます。協同労働の協同組合の法制化後の社会のあり方、組織のあり方、起業のあり方を会員の皆さんと討議したいです。

最後にプライベートなことで恐縮ですが、嬉しかったことを述べます。

全国協同集会開催中の10月8日1時52

分に第2子の子どもが生まれました。名は「昇飛(あさひ)」といいます。(長男は「雄飛(ゆうひ)です」)。雄大に飛躍してほしい想いで名前をつけた長男と、空高く飛びたって欲しい想いで名前をつけた次男です。全国協同集会の開催年(月も近く)に長男も次男も生まれました。我が家は全国協同集会と縁がありそうです。

法制化時代に協同総研は社会情勢に対して高くアンテナをはり、協同の研究・調査・交流のプラットフォームとして、雄大に飛躍できる存在になれるように、協同会員の皆さんと共にならばいいと思っています。

今後ともよろしくお願い致します。